

あいだ／生成

第一〇号

二〇二〇年

あいだ哲学会

Between / Becoming, Vol. 10, 2020
Society of In-between Philosophy

あいだ哲学会規約

- 1 本会は、あいだ哲学会と称し、事務局を京都大学大学院・人間環境学研究科武田宙也研究室に置く。
- 2 本会は、〈あいだ〉への問題意識にもとづく哲学的研究とその発展を目的とする。
- 3 本会の会員は、京都大学大学院人間・環境学研究科武田宙也研究室の関係者ならびに委員会の推薦を受けた者とする。
- 4 本会は、次の事業を行う。
 - (ア) 学会誌『あいだ／生成』の刊行。
 - (イ) 研究会、講演会等の開催。
 - (ウ) その他必要な事業。
- 5 本会の運営を遂行するために委員会を設置する。
- 6 委員会は、若干名の幹事を委嘱することができる。
- 7 規約の改正等の重要事項については、委員会の審議を経て決定する。

『あいだ／生成』投稿規定

- 1 投稿資格は原則として会員に限る。
- 2 投稿論文の内容は未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
- 3 原稿の採否は委員会の委嘱を受けた編集委員が審議の上決定する。
- 4 掲載された論文の著作権は著者に帰属する。掲載された論文等は原則として電子化し、インターネット等を通じて公開する。

〔編集後記〕

『あいだ／生成』第10号を、お届けする。本号の巻頭を飾るのは、ジャック・デリダのフロイト読解を、近年刊行されたデリダの講義録なども参照しつつ再考した意欲的な論文である。また、武満徹を扱った論文は『あいだ／生成』としては初となる英語論文であるが、武満の国際的な知名度に鑑みれば本論文が英語で公刊されることの意義は小さくないだろう。グループ・マテリアルを扱った論文は、80年代以降のアート・アクティヴィズムを牽引し、近年再評価の進むこのアート・コレクティヴに関する日本語では初となる著作であり、こちらも貴重な研究成果である。一方で書評は今回、篠原資明先生の新刊を論じた力作を気鋭のベルクソン研究者が寄稿してくれた。世界的に危機的な状況が続くが、いかに小さなものであっても、こうした自由な学問の場は続いていってほしいと強く願う。

(武田宙也)

〔編集委員〕

蘆田 裕史
 尼ヶ崎 彬
 石田 美紀
 石谷 治寛
 岡田 温司
 岡本 源太
 喜多恵美子
 武田 宙也
 橋本 梓
 山内 朋樹

〔編集幹事〕

原 墨
 松本理沙

『あいだ／生成』 第10号

発行日：令和2年（2020年）3月31日

編集・発行：あいだ哲学会

京都大学大学院人間・環境学研究科武田宙也研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 tel: 075-753-6540

【論文】

「自由エネルギー」をめぐるフロイトの誤読？

——デリダとラプランシュの『快原理の彼岸』読解から——

吉松 寛 1

グループ・マテリアルの実践におけるコミュニティ及び公衆の機能

——《人々の選択》と《DA ZI BAOS》を中心に——

松本 理沙 20

Examining Toru Takemitsu's Compositional Techniques, Aesthetics,
and their Contexts by Focusing on his Piano Piece *Rain Tree Sketch*

原 壘 36

【書評】

篠原資明『あいだ哲学者は語る』

濱田明日郎 58

あいだ／生成

Between / Becoming

[Article]

YOSHIMATSU Satoru Freud's Misunderstanding about "Free Energy"?: From Derrida's and Laplanche's Readings of *Beyond the Pleasure Principle*

MATSUMOTO Risa The Role of Community and Public in the Works of Group material: Focusing on *People's Choice* and *DA ZI BAOS*

HARA Rui Examining Toru Takemitsu's Compositional Techniques, Aesthetics, and their Contexts by Focusing on his Piano Piece *Rain Tree Sketch*

[Book Review]

HAMADA Tomorō SHINOHARA Motoaki, *Aidatetsugakusha wa Kataru*